

# いのちを守り支える木

## 大地を司る神、地面を守る神様「シリコロカムイ」

その昔、アイヌ民族は「シリコロカムイ」と呼んで木を尊んだ。

木が地面を守り、生き物たちを守ることを知っていたのだ。

暮らしに必要な木を伐る際には、神様に

「～に使います」とお話をし、周りの木々にも  
「この木がいなくなると寂しくなるけど、よろしくね」

そう話しかけてから伐っていた。

またその後には苗木を持ってきて

その木が生えていたところに

植えたという。

一本一本と対話し

いのちをいただくということを  
忘れずにいたのだ。

### 【参考】

「アイヌ文化を感じる」

これぞにっぽん 2018

／苫小牧民報 電子版 “7シリコロカムイ”

苫小牧民報社 2020-10-17

緑や紅葉、花や実は  
私たちの心身を  
豊かにし  
癒しの効果を  
与える。

落ち葉や生き物たちの糞や亡骸が  
**微生物**によって分解され  
**豊かな土**を作る。

その土は  
落下した種を発芽させて  
新たな木のいのちを育む。

木々は**交信**し合い  
**大規模な生態系**を  
作り上げている。

そのもとに草花やコケといった植物、菌類、微生物、  
昆虫、鳥類、爬虫類、哺乳類などの様々な動物が  
**絶妙なバランス**を保って生育している。

木々を守ることは  
これらの**生き物や生態系を守る**ことである。

一本の木が  
これだけ多くのいのちを支えてくれています。

**木を愛して、緑の地球へ**

木は、動物、植物、微生物、  
多くの**生き物たちの棲みか**であり  
果実や葉、樹液などは彼らの食糧となる。  
多種多様の野生生物が木から恩恵を受けることで  
生態系が守られている。

葉から放出する水蒸気により  
適度に空気の温度や湿度が  
調節される。

化学物質やホコリを吸着し  
**空気を浄化**する。

光合成により吸収した  
二酸化炭素から  
成長に必要な  
**炭素を蓄え  
酸素を放出**する。

枝葉は、強い風の  
流れをやわらげ  
防音効果も備える。

木陰を作り  
生き物たちの憩いの場となる。

地上は、落ち葉や下草・草花に  
覆われることにより、雨風で  
表土が削られることがなくなる。  
地中は、木の根が網の目のように  
はりめぐらされて、土をしっかりと  
掘み、土砂の流出を防ぐ。

根は地中に空気を通し、水を保ち  
**地温を安定**させる。  
夏は涼しく冬は温かい。

雨水が土砂の細かな粒子や岩石  
落ち葉や根っこを通ることで  
水がろ過されて綺麗になる。

**水のろ過システム**



いすみ竹炭研究会



私たち、竹炭で木々が豊かに育つ  
土壤環境作りをしています。